

# 図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.137



2001. 10

- シリーズ“！”静大に無い！！？？ ●理想的な図書館とは(事務部長)  
●研修報告(釜田係員・福井係員) ●教官寄贈本の紹介 ●図書館の動き ●図書館開館案内

## シリーズ“！” 第6回 静大に無い！！？？

静岡大学 OPAC で検索し、所蔵が無いことがわかりました。

(念のため古い本はカード目録も検索してください。)

諦めないでください。他機関から、コピーの取寄せ 本の貸借ができます。

NACSIS Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp/>) で検索してください。

図書館ホームページ 学外蔵書検索からも入れます。

Internet Explorer 5.0

→ × 戻る 進む 検索 印刷 設定

http://webcat.nii.ac.jp/

### NACSIS Webcat

総合目録データベースWWW検索サービス

- ・ (システム改善 2001.01.15)
  - フルタイトルキーによる検索が可能となりました。
  - english version で UTF-8 による多言語表示が可能となりました。[多言語表示の仕方]
- ・ その他の[お知らせ]

---

Webcatは、学術研究利用のために供するものであり、営利のための利用はできません。  
なお、Webcatで検索した資料について、図書館に利用を申し込む際には、各図書館で利用条件が異なる場合がありますので、あらかじめ電話等で御確認ください。  
また、各機関のシステムからWebcatを横断的に検索するなどの形で利用を希望する場合は、次の要領であらかじめ申請してください。個人的利用については、こちらを御覧ください。

[Webcatと[3]] [利用の手引き] [English version here]

---

◎ 全資料 ◎ 図書 ◎ 雑誌

タイトル・ワード:

著者名:

出版者:

出版年:

標準番号:

フリーワード:

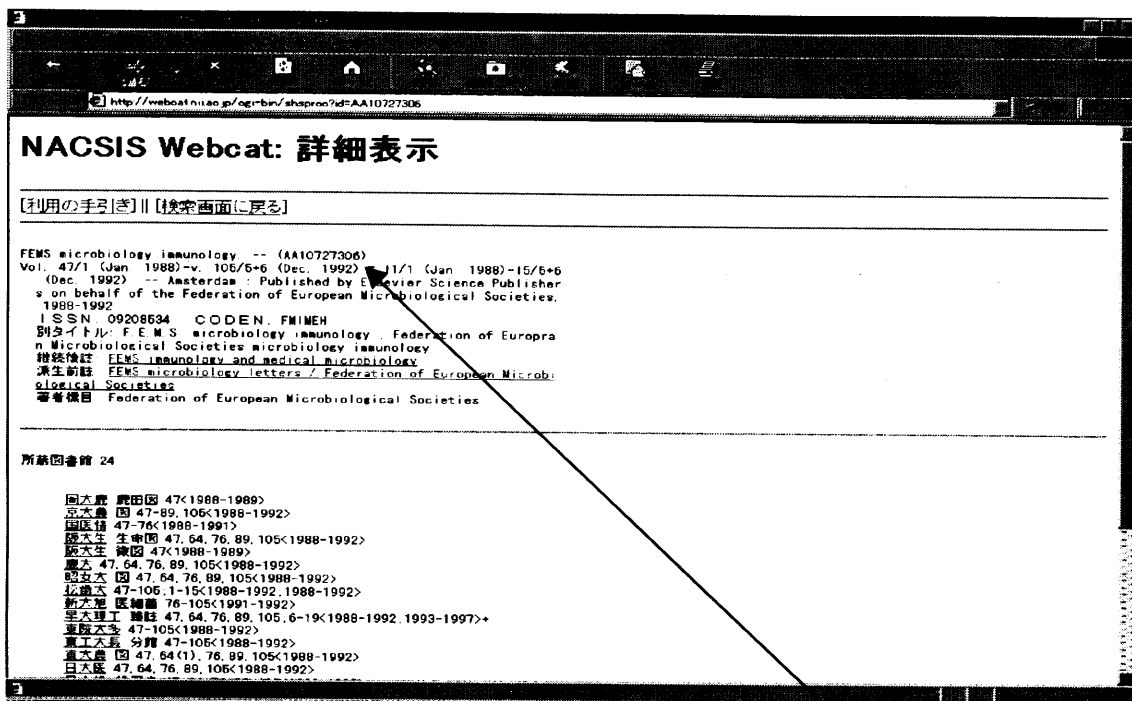
フルタイトル:

## 操作方法

1. 検索語を空白で区切って入力 (漢字・カタカナ・ひらがな・ローマ字)
2. 表示したい資料名をクリックすると、資料の詳細画面と 所蔵館を表示

## 検索する際のヒント

- ・ 検索語を空白で区切る事により、論理積 (AND) 検索となります。
- ・ 該当する資料名は 200 件までしか表示されません。
- ・ 前方一致検索を行うときは、検索語の末尾に “\*” をつけてください。
- ・ 著者名検索は、姓と名を空白で区切って入力してください。
- ・ 外国人著者の場合は原綴で入力してください。



AA10727306

上記検索結果で、雑誌の場合は AA 番号または AN 番号

図書の場合は BA 番号または BN 番号を

“学外への文献複写依頼書” “相互貸借申込書”に記載してください。

料金は 文献複写の場合 相手の図書館により異なりますが、  
国立大学の場合 1 枚 35 円+郵送料がかかります。

相互貸借の場合 往復の郵送料が必要となります。

\* 参考図書 雑誌の貸借は出来ません。

資料の到着までには 約 1 週間から 10 日前後かかります。

★★★ 10 月～11 月は卒論・修論で申込が殺到いたしますので、  
早めにお申し込みください。

(参考調査係)

## 理想的な図書館とは

石川 護

静岡大学に赴任して早くも7か月目に入った。先日、編集長から、そろそろ事務部長としての所感などを「図書館通信」に掲載したいので原稿を執筆するように、と依頼があった。私は日頃、無味乾燥な行政文書類は書き慣れているが、本号の巻頭に近い頁を飾るにふさわしい文章を書けるかどうか自信はない。しかし、これも部長としての務めとあきらめて筆を執ることとした。

さて、本題に入り、静岡大学での仕事の感想から述べていくと、図書館の仕事は初めてであったにもかかわらず、意外に抵抗感なく入れたように思う。これは、事務部の職員全員が素人である私を暖かく迎え入れてくれたことが第一。次いで、時期を同じくして図書館長に就任された大江館長の図書館に対する情熱、掲げる理想に全く共感できたことが大きかったのではないかと思っている。

私の前任地は東京・霞が関の文部科学省。そこで4年の間、行政事務を情報システム化していく仕事に取り組んできた。それ以前は、北関東の二つの国立大学と都内にある大学共同利用機関に勤め、ともに人事関係を中心とする庶務系の仕事を担当した経験はあるが、こと図書館の仕事については未経験であった。先般、文部科学省の指示で異動が決まった際には、一抹の不安を感じたものである。しかし、“案ずるより産むが易し”のごとく、館長をはじめ情報管理課長、情報サービス課長等ベテラン職員の懇切丁寧なサポートを得て、新米部長も徐々にではあるが格好がつきはじめたかも知れない。

図書館は「大学の顔」あるいは「大学の心臓」と評されている。この言葉を踏まえて自分なりに図書館の基本的機能は何かを考えると、端的に言えば知的欲求とそれを

満たす学術的情報を結びつけるために機能すべきものということ。つまり、教育研究上で必要な様々な情報(電子的情報を含む)を網羅的に収集し、整理し、保存し、活用する手段を備えていなければならない場所ということになる。また、多数の教職員、学生、一般市民が集まる場所であるから、「大学の顔」としてそれなりに建物の構えも立派であり、より快適に利用できる環境とレファレンスサービスのために種々の情報システム等を有していることが必要である。

この観点から、静岡大学附属図書館(本館・分館とも)の現状を振り返ると、残念ながら完成された、理想的な図書館の姿であるとは言い難い。面積の割には機能的でない建物構造、閲覧席の少なさ、狭隘で閉架式の書庫、不明確な資料収集方針、短い開館時間、自動サービスの採用の遅れ、そして何よりも中規模総合大学全般に共通した問題としての図書館予算の少額なことが、大きく影響しているものと思われる。これらを一朝一夕に解決する手段はないが、私自身としては課題が山積していることを多として、今後6年間で期間とする「附属図書館総合整備計画」を全学的な合意の下に策定し、中期的な展望に立って課題を解決していくことを指向するつもりである。

現在、静岡大学自体が、独立行政法人化や大学構造改革の動きの真っ只中にあり、大きく変わろうとしている。附属図書館もそれに合わせて変わるべきであり、このチャンスを逃せば、その実現はますます困難になる。ぜひとも、「利用者本位の図書館」づくりを実現させたいと思っている。

(附属図書館事務部長)

## ● 研修報告

## 図書館に来る人、来ない人 (長期研修を終えて)

釜田 香寿枝

7月9日(月)より3週間大学図書館職員長期研修に参加させていただきました。全国から集まった国公立大学の図書館職員総勢33名、普段はなかなか顔を会わせる機会のない全国規模の研修ですので、いろいろな面で勉強になることが多かったです。

今年の重点はなんといっても図書館における「電子化情報」で特に「電子ジャーナル」の導入が大きく取り上げられました。「電子ジャーナル」または「オンラインジャーナル」ともいわれるものですが、これまで冊子の形に編集・発行していた学術情報をインターネット上でデジタル化して配信するものです。学術情報が図書館に来館することなく利用者の手元に届くということで図書館に来館しない人をサービスの対象とする情報発信が始まっているのです。これは、図書館にとって大きな変化ですね。今までは顔の見える利用者＝図書館に来館する人を対象としていたのにもっと広い層の利用者に情報を提供することになるのですから。

ここ数年の間にインターネットは大学だけでなく一般の生活のなかで情報を簡単に手に入れられる環境を作り出しました。検索語をポンと入力するだけで必要な情報が取り出せることが普通になっているんです。

さてそういう状況を図書館は作り出せるでしょうか。アクセスするための契約やホームページでのゲートウェイ機能の整備、保守など図書館が具体的に行わなければならない業務がたくさんあります。そのための予算をどうするのか、またインターネット上の情報の問題点である過去の情報をいかに保存していくか(バックナンバーの保存)という大きな課題も解決していかなければなりません。図書館に足を運ばない利用者にはいかに情報を提供するかこれがこれからの図書館の存在意義になってくることが何度も講義のなかで語られま

した。受講している私たち図書館職員も今後のそれぞれの業務に役立てようとお互いの図書館の問題点を聞き、語り合いました。

一方、研修から帰って図書館の現場に戻ると、図書館に来館している利用者に対するサービスも重要だと思いました。今回の研修中いくつかの大学の図書館や関連機関を見学させていただきました。第3週めの忘れられない暑さの中、地下鉄を乗り継いで国会図書館を見学したのですが、ここは私のような地方の大学に勤務していると実際に訪れることではない場所でした。国会図書館もインターネット上で目録を公開し、いろいろな情報を発信していますので来館しなくても情報を得ることができます。しかし、実際に足を運んで閲覧室や書庫をみると顔の見える相手としてイメージができました。うまくいえないけれどこのイメージが重要だと思います。図書館を利用する特に学部生の方たちには図書館の中にどんな資料がどのように存在するか知って利用していただきたい。書棚で1冊の本を探しているとき、初めに必要とした本のまわりには同じようなテーマの本が並んでいるのでついでに覗いてみると知識がひろがります。雑誌もバックナンバーがありますので最新版だけでなく以前の巻号も開いてみてください。図書館のホームページやカウンターの案内も活用して図書館にある資料を頭にイメージできるようになるともっと「使える図書館」になります。

さらにもっと外にある情報が必要になった時、最初に言いました電子ジャーナルをふくめたインターネット上の情報アクセス環境が必要になってくるのですが、その間の橋渡しがうまくいくように努力していきたいというのが研修で得た私の課題です。雑誌を担当していますので何か有りましたら声かけてください。(システム管理係)

## 著作権実務講習会に参加して

福井 郁夫

今回の研修に参加したことで著作者の側から見た著作権について考えることができるようになった。つまり、著作権とは基本的人権の一つであり、本来は保護されるはずの権利であるが、著作物の公正で円滑な利用のため著作権法30条（私的利用のための複製）、31条（図書館等における複製等）によって著作権者の権利を例外的に制限する場合が定められており、図書館においても著作権法の範囲内なら著作権者に許諾を得ることなく著作物を利用することができるのである。

研修の中で、業務との関わりで特に気になった部分は公衆送信権についてである。

公衆送信権とは他人が無断で公衆送信することを止めることができる権利のことである。

公衆送信権を侵害する例としては、ホームページ上に著作物をアップロードする場合があげられる。アップロードすることで、そのページに行けば誰でも著作物を見ることが出来る状態になっているため（送信可能化）、たとえ誰もそのページを見ていなくてもアップロードした時点で著作権を侵害したことになる。

この権利が制限されるのは聴覚障害者のためにテレビの音声を文字にして自動送信する場合（著作権法37条の2）と限定されているため、図書館サービスに関連しては著作権者の権利は制限されないで図書館は著作者に無断で公衆送信することはできない。そのため、ファックス・画像伝送システムを使用して文献のコピーを送信することはこの権利との関係で問題になる場合がある。それは、著作物を著作者に無断

で公衆に送信することになるからである。ただし、公衆送信権で問題になるのは公衆に対して送信する場合である。ここでいう公衆とは、不特定の相手や特定多数の相手のことであるため、特定少数への送信については公衆への送信とは言えないため著作権法の範囲内といえるかもしれない（例、本館～分館間のやり取り）。しかし、この場合も、ホームページ上にアップロードする例と同様に、たとえ公衆に送信していなくても依頼があれば誰にでも送信（サービスを提供）するという状態では公衆送信権を侵害したことになる。そのため、ファックスや画像伝送システムを使用して文献のやり取りをする場合、きわめて限られた範囲内で、固定された相手との間でサービスを行う必要があるといえる。

もちろんその場合でも、データを送信可能化の状態のままにしておかない、利用者に提供後は速やかにデータを削除する等の配慮が当然必要になってくる。

しかし、どれだけの相手にサービスを提供すれば公衆にあたるのかについてはまだ判例もないためあいまいなままであるといえる。あいまいな部分については実際に裁判になってみないとわからないが、仮に著作権侵害で訴えられた場合法人では最高1億円の罰金刑が課せられるため、法律の解釈とそれに基づくサービスの提供については各図書館の責任において判断をしていく必要があるといえる。

（参考調査係）

## 教官著作寄贈図書一覧

\*このリストは本学職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたものです。受入期間は平成12年10月から平成13年8月までです。なお、所属は当時の所属を示します。

### ●本館受入

- ◇伊藤恭彦(人文学部) 現代生協改革の展望 : 古い協同から新しい協同へ 21世紀生協理論研究会編 大月書店 [335.66/N73] <執筆>
- ◇重松宗育(人文学部) 野生の実践 ゲーリー・スナイダー著; 重松宗育、原成吉訳 山と溪谷社 [934/SN]
- ◇山崎昌一(理学部) 生体膜のダイナミクス (シリーズ・ニューバイオフィジックス) 八田一郎、村田昌之担当編集委員 共立出版 [464.9/N77/2(4)] <執筆>
- ◇奥田裕子(名誉教授) 笛とたて琴: 審美的想像力 近代文芸社 [701/O54]
- ◇浅利一郎(人文学部) IT時代のマクロ経済学 実教出版 [331/A88]
- ◇栗岡幹英(人文学部) 社会構築主義のスペクトラム: パースペクティブの現在と可能性 中河伸俊、北沢毅、土井隆義編 ナカニシヤ出版 [360.4/N32] <執筆>
- ◇松木栄三(人文学部) 白樺の手紙を送りました: ロシア中世都市の歴史と日常生活 V.L. ヤーニン著; 松木栄三、三浦清美訳 山川出版社 開架 [238/I11]
- ◇居城弘(人文学部) ドイツ金融史研究: ドイツ型金融システムとライヒスバンク ミネルヴァ書房 [338.234/I81]
- ◇杉田泰一(教育学部) 思索と詩作 杉田勝世 開架/閉架 [104/SU46]
- ◇湯之上隆(人文学部)
  - ・三つの東海道 静岡新聞社 [682.15/Y98]
  - ・日本中世の政治権力と仏教 思文閣出版 [210.4/Y98]
- ◇楊海英(人文学部)
  - ・国外刊行の鄂爾多期蒙古族文史資料 内蒙古人 民出版社 [222.6/Y51] <編>
  - ・Manuscripts from Private Collections in Ordus. Mongolia; 1 International

Society for the Study of the Culture and Economy of the Orders Mongols [022.22/MA48/1]

- ◇宇都宮裕章(教育学部) 数えることば: 数えることをめぐる認識と日本語 日本図書刊行会 開架/閉架 [810.1/U96]
- ◇村越真(教育学部) 道迷い遭難を防ぐ最新読図術: 道迷いの心理とナビゲーション技術 山と溪谷社 開架 [786.1/MU46]
- ◇熊野善介(教育学部) The Effects of STS Instruction in Japan Compares to Results Reported in The US 梓出版社 [407/KU34]
- ◇本多隆成(人文学部) 浅羽町史; 通史編 浅羽町史編さん委員会編 浅羽町 [215.4/A81/1] <監修・執筆>
- ◇米田芳秋(名誉教授) アサガオ画像データベース [CD-ROM] 米田芳秋、仁田坂英二著 [479.95/(CD-ROM)]
- ◇荒川章二(情報学部) 軍隊と地域 青木書店 [392.1/A63]
- ◇久保英雄(人文学部) スターリニズムとは何だったのか 1917-1939 リ・バンチョン著; 久保英雄訳 現代思潮新社 開架/閉架 [309.338/L61]
- ◇上利博規(人文学部) デリダ (Century books . 人と思想 175) 清水書院 [135.5/D63A]

### ●分館受入

- ◇牧野紀之(工学部) 西洋哲学史要 (波多野精一著) 未知谷 [130.2/H42] <再話>
- ◇浅間正通(情報学部) 異文化理解の座標軸: 概念的理解を超えて 日本図書センター [361.5/A86]
- ◇田村貞雄(情報学部)
  - ・ええじゃないかが始まる 青木書店 [215/TA82]
  - ・日本史をみなおす: 地域から撃つ国家の幻想 青木書店 [210/TA82/1]
  - ・戦争と近代 青木書店 [210/TA82/2]
  - ・初代山口県令中野梧一日記 (中野梧一著) [289.1/N39] <校注>
- ◇宇都宮裕章(教育学部) 数えることば: 数えることをめぐる認識と日本語 [810.1/U96]
- ◇高井英造(人文学部) 問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門: Excelの活用と実務的問題 [336.1/TA34] <共著>

- ◇溜渕継博(理学部) 計算物理学入門(ゴールド、トボチニク著) [421.5/G73] <監翻訳>
- ◇市川 朗(工学部) Linear time varying systems and sampled-data systems ; Springer [548.3/I14] <共著>
- ◇辻 知章(工学部) 弾性学ハンドブック ; 朝倉書店 [501.33/D38] <共著>
- ◇鎌田 哲宏(情報学部) 社会諸階層と現代家族 ; 御茶の水書房 [361.85/KA31] <共著>
- ◇荒川 章二(情報学部) 軍隊と地域 ; 青木書店 [392.1/A63]

- ◇栗岡 幹英(人文学部) 社会構築主義のスペクトラム : パースペクティブの現在と可能性 中河伸俊,北沢毅,土井隆義編 ナカニシヤ出版[360.4/N32] <執筆>

図書館では学内出版物および学内関係者が執筆した図書資料を収集しています。出版されましたらぜひ、図書館にご恵贈下さるようお願いします。

## ----- 図 書 館 の 動 き -----

### ◆会 議

#### 第48回国立大学図書館協議会総会

(平成13年6月27日(水)~28日(木))  
於:北海道大学学術交流会館)

図書館長、事務部長、情報管理課長が出席。

各委員会等の活動報告の後、グローバルILL/DDの推進や文部科学大臣等への要望等について協議が行われた。また、文部科学省学術機関課長から、独立行政法人化問題や大学の構造改革等、大学図書館を取り巻く状況の説明があった。

引き続き行われた合同分科会では、館長の位置づけ、電子ジャーナル等、4つの協議題について活発な議論が行われた。

二日目には、「大学図書館機能の新たな展開」をテーマに研究集会が開催され、各大学からの発表が行われ、その後、海外派遣者からの報告があった。

#### 平成13年度第2回静岡大学附属図書館委員会

平成13年7月5日(木)

##### ○審議事項

1. 平成13年度附属図書館事業計画
2. 平成13年度附属図書館予算(運営費)
3. 平成13年度図書購入費の配分
4. 重複雑誌の不用決定

##### ○報告事項

1. 平成12年度附属図書館経費決算
2. 図書館利用状況
3. 本館及び浜松分館WG(選定部会設置等)

##### 4. 附属図書館利用セミナー

##### 5. 電子ジャーナルに関するアンケート結果

##### 6. 附属図書館本館の館外サインの充実

##### 7. 平成13年度国立大学図書館協議会総会

#### 平成13年度静岡県立大学図書館協議会総会

(平成13年7月17日(火)) 於:静岡県立大学)

図書館長、事務部長、情報サービス課長、図書館専門員が出席。

議長選出の後、平成12年度経過報告、決算報告、監査報告等があり、引き続き平成13年度事業計画・予算案等について協議が行われ、事業計画としてはメーリングリスト設置の具体案等が承認された。

また、国公立大学・短大・高専図書館におけるそれぞれの現況について報告があった。

その後、静岡県立大学看護学部の永井洋子教授による講演「中年期の心の健康問題」が行われた。

#### 第53回東海地区大学図書館協議会総会・研究集会

(平成13年7月27日(金)) 於:三重大学)

情報サービス課長が出席。

議長選出の後、報告事項として平成12年度事業報告、決算報告、監査報告等があり、引き続き新規加盟館の承認、平成13年度事業計画・予算案について協議が行われ承認された。

また、研究集会では「大学図書館の社会貢献のあり方」について事例報告の後、活発な質疑応答が行われた。

## 2001年10月～2002年3月の開館日程表

## 本館（静岡）

| 10月 |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|     | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7   | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14  | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21  | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28  | 29 | 30 | 31 |    |    |    |

| 11月 |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|     |    |    |    | 1  | 2  | 3  |
| 4   | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11  | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18  | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25  | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |

| 12月 |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|     |    |    |    |    |    | 1  |
| 2   | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  |
| 9   | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16  | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23  | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30  | 31 |    |    |    |    |    |

| 2002年1月 |    |    |    |    |    |    |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| 日       | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|         |    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |
| 6       | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
| 13      | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20      | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27      | 28 | 29 | 30 | 31 |    |    |

| 2月 |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |    |    |

| 3月 |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

- ☐ 開館 平日 9:00～22:00 土曜日 11:00～19:00  
☐ 開館 平日 9:00～17:00 各季の休業期間中  
☐ 休館 日曜・祝日、創立記念日、年末年始、各季の休業期間中の土曜日

## 分館（浜松）

| 10月 |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|     | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7   | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14  | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21  | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28  | 29 | 30 | 31 |    |    |    |

| 11月 |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|     |    |    |    | 1  | 2  | 3  |
| 4   | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11  | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18  | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25  | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |

| 12月 |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 日   | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|     |    |    |    |    |    | 1  |
| 2   | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  |
| 9   | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16  | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23  | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30  | 31 |    |    |    |    |    |

| 2002年1月 |    |    |    |    |    |    |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| 日       | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|         |    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |
| 6       | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
| 13      | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20      | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27      | 28 | 29 | 30 | 31 |    |    |

| 2月 |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |    |    |

| 3月 |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

- ☐ 開館 平日 9:00～21:00 土曜日 9:00～17:00  
☐ 開館 平日 9:00～17:00 各季の休業期間中  
☐ 休館 日曜・祝日、創立記念日、年末年始、各季の休業期間中の土曜日